

西多摩医師会報

1982年7月1日

117号

発行所・社団法人 西多摩医師会 東京都青梅市西分3-103

編集委員・菅井 義久 TEL (0428) 23-2171代

栗原 琢磨 佐藤 義弘 斉藤 信幸 塩沢 三朗

高木 直 堀田 洋夫 道又 正達 村山 正昭

西多摩市町村長と西多摩医師会役員との 懇談会（西多摩地区医療懇話会）開かる

去る5月29日、恒例の西多摩医療懇話会が、青梅四季楽園で開催された。医師会側は、瀬戸岡会長、江本、西村両副会長、足立、大塚、川辺、木野村、小林、高木、箱崎、林、東、松原各理事、自治体側では、山崎青梅、田村福生、臼井秋川各市長、井上羽村、吉岡瑞穂、宮岡日の出、山崎五日市（助役）、大場奥多摩（助役）、各町長及び代理、その他、原島青梅市福祉部長、小沢同健康課長、栗原瑞穂町衛生課長が出席した。

今回の会は、自治体側の当番であり、席上、自治体側を代表して、山崎市長、吉岡町長の挨拶があり、次いで瀬戸岡会長が挨拶に立ち、自治体事業に対する医師会員の円滑な業務遂行のために、例えば会員の出勤途中での災害補償、当該医療活動中の事故等に対する自治体側の配慮等につき申し入れがあった。次いで小沢課長より、休日準夜診療事業実施状況について、又、本年度より始まった1才6ヶ月児健診の実施状況について経過報告があった。この後、高木理事より「公的病院と医師会との連携について」と題して意見発表が行われ、これについて若干協議がなされた。この後、懇親会に移り、梅雨入り前の暑さも手伝ってお互い文字通り胸衿をひらいて、なごやかな歓談風景がみられ、午後5時、江本副会長の閉会の辞で散会した。

（尚、自治体側の報告事項、及び高木理事の意見発表全文は以下の通りです。）

西多摩医療懇話会

1. 日時 昭和57年5月29日（出）
午後2時～5時
2. 場所 青梅市四季楽園
3. 出席者 ※
4. 会議の内容
(1) あいさつ（要旨）

山崎青梅市長

前回は昨年11月28日に開催されているが、今回は市町村側が当番として開催した。

医師会の先生方にはご多用中にもかかわらず多数ご出席いただいたことを厚くお礼申し上げます。市町村の保健衛生事業も医師会のご協力をいただき、お蔭さまをもって円滑に運営されているが、本年度からは休日、準夜診療事業が市町村に移管されるとともに、新たに1才6ヶ月児の健康診査が始められた。その内容については後ほど担当から御報告申し上げるが、これらの事業開始に当り大変なご配慮を頂戴したことに対し深く感謝を申し上げます。今後とも市町村事業へのご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

(2)

吉岡瑞穂町長

医師会の日頃のご協力に感謝申し上げます。今後とも市町村の保健衛生業務が円滑に遂行出来ますよう医師会の一層のご協力をおねがしいたい。

瀬戸岡会長

この会合は、春と秋とに開催されることになっているが、ここ1～2年は年1回となっていた。新年早々に呼びかけがあり、開催されたことにお礼を申し上げます。2月29日の羽田沖の日航機事故の際、地元蒲田医師会が救護活動に活躍されたことは記憶されていることと思われるが、これは医療救護体系が確立されていたことが大いに役立っているものと思われる。西多摩医師会でも、3月22日の医師会総会で、医療救護体系の大綱が決まった。国会は、94日間延長され、老人保険法案の審議が注目されているが、昨年度衆議院を大改正され通過し、現在参議院で審議中である。渡辺都医師会長の見解では、ほとんど通るとのことであり、実施主体が市町村であるから我々との関係は、ますます深くなっていくものと思われる。過日の地区医師会長会議で取り上げられた予防接種等の際の往復時におけるアクシデントに対する補償について申し上げたい。23区は、都医師会と安田海上火災保険とで補償契約が結ばれている。23区の場合は、三者協議会で定め、画一的に出来ているが、西多摩の市町村については協議がされていない。西多摩地区医療協でたたき台を作り、四者協へ図っていくといったことは出来ないか。秋川市で調整したところによると、予防接種医等を非常勤時別職とし、公務災害の対象として整備されているところは羽村町のみであった。早々に整備されるようにおねがいます。最後に医療法改正に関し、都医師会が市町村の長期計画を参考資料とすることとなったので、医師会あて1部送付くださるようお願いいたします。

あいさつ終了後、山崎青梅市長が座長となり、出席者の自己紹介が行われ、続いて議事が進められた。

(2) 報告

座長(山崎青梅市長)；報告事項の2件について、事務担当者より内容を説明する。

小沢青梅市健康課長；報告事項の前に、ご参考ま

でに西多摩地区市町村と医師会との協議状況についての過去3ケ年の資料をお配りしてあることを報告する。

ア. 休日、準夜診療事業実施状況について

55年8月29日に多摩地区四者協議会に市町村への移管が報告事項として提案されて以来、市長会、町村長会、市町村課長会議等沢山の会議が重ねられたが、11月9日の四者協議会で移管についての合意がなされた。西多摩地区では、56年12月2日の西多摩地区医療協で、①現行の実施方法で移管する。②契約は各市町村ごとに各市町村医師会と行うことが合意された。実施にいたる経緯は以上のとおりであるが、事業は4月以後円滑に実施されている。

イ. 1才6ヶ月児健康診査実施状況について

54年9月10日の多摩地区四者協議会に都医師会から三多摩地区での実施についての提案があり、55年8月29日の四者協で「出来るところから実施する」との合意がなされた。西多摩地区については、56年12月2日の医療協で①集団健診、②医師の雇上げ方式が合意され、本年4月から実施されることとなった。各市町村の対応は、既に実施したところまたはこれから実施しようとするところがあるが、おおむね順調に行われている。

座長；ただいまの報告についてご質疑がありましたらご発言ねがいたい。

特にないようですので、報告事項2件はご了承いただきたい。

(3) 意見交換

座長；医師会からご発言ねがいたい。

高木理事；公的病院と医師会との連携についてお話ししたい。

(内容 別掲のとおり)

座長；高木先生より大変有意義なお話をお伺い出来た。青梅市立総合病院についてのCTを開業医が利用される際の待ち日数については、病院の実情を調べてみる。他に発言は。

西村副会長；

① 西多摩地域における公的病院は、青梅市立病院、福生病院、阿伎留病院の3病院であるが、これらの病院間でそれぞれ機能を分担し、各病院の特色を出すことは出来ないか。

② 老人医療費のために医療費が増高している

という俗説があるが、医療の高度化によるところが多いということを市町村としても理解ねがいたい。

座長；広域的なネットワークについては今後の検討課題と思われるが、この件について、福生市長，秋川市長の意見を伺いたい。

田村福生市長，白井秋川市長よりそれぞれ福生病院，阿伎留病院の現状等についての説明ならびに意見等が述べられた。

座長；以上で意見交換を終了し、懇談に移りたい。

午後3時10分より懇談に移り、午後5時散会した。

※ 西多摩地区医療懇話会出席者名

西多摩医師会				市町村	
役職名	氏名	役職名	氏名	市町村長	事務担当者
会長	瀬戸岡 進	理事	箱崎 淳	青梅市長 山崎 正雄	青梅市福祉部長 原島 英雄
副会長	江本 虎雄	〃	林 実	福生市長 田村 匡雄	青梅市健康課長 小澤 郁美
〃	西村 邦康	〃	東 吉男	秋川市長 白井 孝	瑞穂町衛生課長 栗原 国光
理事	足立 卓三	〃	松原 貞一	羽村市長 井上篤太郎	
〃	大塚 渉			瑞穂町長 吉岡 親一	
〃	川辺 隆道			日の出町長 宮岡 武一	
〃	木野村幸彦			五日市町長 栗原 昇作	
〃	小林 康光			檜原村長 小泉 康作	
〃	高木 直			奥多摩町長 川辺 文夫 (代理 助役 大場 久)	

◎ 自治体側の報告事項は5，6頁の表参照。

意見発表

公的病院と医師会との連携について

高 木 直

現在、日本経済は低成長期に入り、一般の景気も低迷している。

先頃行われた、第2次臨調における答申によれば、政府の福祉政策にも厳しい目が向けられ、この中で総医療費は、益々抑制される傾向にある。

現在の医療環境をみれば、高度成長期時代を経て、最近の技術革新は著しく、文化水準も飛躍的向上し、国民生活は、物質的により豊かになったため、より高度な医療が要求されるようになってきた。

ここに一般大衆の側では、大病院志向、医療機関の側では、拡充整備による高度に組織化，専門細分化された医療の供給が徐々に進行しつつある。そして、技術面では欧米先進国を上まわる水準に達している。例えば高度な機械であるCTスキャナーの保有台数も米国をはるかに上まわっている。

ここに、次のような問題が生じてきた。

第1に、高度に組織化専門分化が進行すると、人間を人間として直視するヒポクラテス以来の真に血の通った医学は後退し、人間を一個の物体と

(4)

して捕える、冷やかな機械工学の一分野といった感じで陥る恐れがある事である。

第2に、大病院志向による大病院、特に、近年全国的規模で整備拡充される公的病院への地域住民の殺到のため外来は大混乱し、病院機能麻痺の発生がみられる事、また患者側からみればそれこそ、3時間待ちの3分間診療と言われるサービスの低下が生じてくる。また、地域医師会員と公的病院の連携動作、例えば開業医による紹介患者への病院側の対応の蹉跎、更に高額な医療機械に対する医師会員による円滑な共同利用の蹉跎、例えば、私事で恐縮ながら、私共の病院では早くから、総合病院のCTスキャナーを共同利用させて戴く恩恵に浴して、当初は円滑に実施されており、政府のいう医療費節約のための高額機械の共同利用推進という建前にうまく合致していた。しかし、最近では、緊急事態でも1ヶ月位待期させられる状態になってきている。

また、我国はこれから益々高齢化社会をむかえて、好むと好まざるとにかかわらず、疾病構造は変化する、と共に患者数も増加するであろう。これに対するに、現在審議中の老人健保法案の導入による行政側の改革のみでは満足のゆく解決にはならないだろう。

こうした問題に対処するには、常に医療の第一線にあって活躍する地域医師会が、やはり予防医学を含むprimary careといわれる初期医療活動をしっかりと受け持ち、高次元の医療を要する疾病については、高度な機能を有する公的機関が担うという疾病構造如何による活動内容の機能分担をはかる必要があらう。

そもそも、欧米の病院の発生起源は、我国のそれと著しく異なり、病院本来の使命は、入院患者の施療にあるというのが彼等の発想である。従って、欧米では自然に、初期治療と入院治療との機能分担が生まれてきた。これに対して、我国では明治以来、自由開業制度のもとに発展した私的医療機関は、国家の医療政策のお蔭で次第に病院へと発展してきた。そしてこのパターンは、現在に至るもすべての面で踏襲されている。

現在、仄聞すれば公的病院の外来は、各科共に来院患者で殺到し、ためにスタッフはこれの対応に労力の大半を費やし、病院本来の使命である入院患者の診療活動に気迫がこもらないとの事であ

る。この点を重視すべきであると考ええる。

では次に、機能分担を行った際に病院としては、医療機関と言えども一般企業と同じであるとする運営者側の立場からすれば、経営の安定をすぐに思い浮かべ、採算の心配が生じてくるだろう。ここで僭越ながら、私の独断的見解を述べてみたい。

私の試算によれば、一般病院の収支バランスシートをみると、総収入の1/3は外来部門で占められ、2/3は入院部門で占められるという大体の原則がみられる。そして面白い事に、外来患者が如何に多くなってもこのバランスは大して崩れないのである。何故ならば、外来患者が多くなればなる程、患者1人あたりの密度の高い医療を施す事が困難になると同時に、サービスの低下により、患者1人あたりの来院回数の減少が重なって、外来収入はほぼ一定におちつくからである。

ところが、これに対して支出の方はどうかとみると、人件費だけを単純に配置されるスタッフの頭数だけで考えてみると、外来部門、入院部門の占める比率は1:1となり、明らかに、外来部門は赤字となる。

このことにより、仮に、外来部門の縮少があれば、この分だけ入院部門への対応に、スタッフの全労力を傾注する事ができ、スタッフ側にも又、患者側にもお互いに納得のゆく密度の高い診療の実績を上げ、結果としてベッドの回転率も高まり、収入の面でも外来部門のマイナスを凌ぐであろう。

そして、ゆとりのある外来には、セミオープン方式も採用し、医師会々員にも開放し、病院のスタッフと自由闊達な意見の交換及び、患者に対する共同の診療活動も促進され得るだろう。

従って、患者にとってみれば、平素気心のしれたHome doctorに初期医療をゆだね、必要ならば、次第に高次元への医療内容へ、円滑に移行してもらえらる事になり、理想的な医療環境が出現するであろう。

更に政府のいう医療費節約の対策としての高額医療機械の共同利用も円滑に促進されるだろう。

このようにして、公的病院と医師会の連携は円滑に深まり、充実した医療活動の実践は、病める弱者である患者に最大の利益をもたらし、地域医療に多大の貢献をなし、同時に合理的な福祉の実践は、今後、益々厳しくなるであろう我国の経済事情に大いに寄与するであろうと考える。

自治体側の報告事項

1. 休日・準夜診療事業実施状況調 (57. 5. 10)

(1) 休日診療

()内は担当医師数

市町村名	開 設 数		実 施 方 法 (参加医師・医療機関数)			診 療 時 間
	休 日 〔祝 日〕 〔祝 日〕 〔年末年始〕	祝 日 の み	市 町 村 直 営	医 師 会 委 託		
				センター方式	在宅輪番	
青 梅 市	1				○ (18)	AM 9:00 ~ PM 5:00
福 生 市	1			○ (19)		〃
秋 川 市	1		○ (7)		○ (7)	〃
羽 村 町	1				○ (13)	〃
瑞 穂 町		1			○ (5)	〃
日の出町		1			○ (3)	〃
五日市町	1				○ (8)	〃
檜 原 村						
奥多摩町	1		○ (1)			〃

(2) 準夜診療

地区別	市町村名	開設数	実 施 方 法 (参 加 医 師 ・ 医 療 機 関 数)			診 療 時 間
			市 町 村 直 営	医 師 会 委 託		
				センター方式	在 宅 輪 番	
西 部	青 梅 市	1			○ (16)	PM 5 : 00 ~ PM 10 : 00
	奥多摩町					
東 部	福 生 市	1			○ 〔 福 生 市 5 羽 村 町 5 瑞 穂 町 2 〕	〃
	羽 村 町					
	瑞 穂 町					
南 部	秋 川 市	1	○ (秋 川 市 7)		○ 〔 秋 川 市 6 日 の 出 町 1 五 日 市 町 1 〕	〃
	日 の 出 町					
	五 日 市 町					
	檜 原 村					

2. 1歳6か月児健康診査実施状況調

57. 5. 10

昭和57年度実施状況		集 施 基 準			（市町村と医師会とで協議したもの）										保健所へ 応援を 求める数 保健婦				
市町村名	実施月日 （今後の予定）	対象人員	受診人員	保健所の応援状況		実施回数	対象人員 （受診予想数）	健 診 従 事 者 数					計						
				保健婦	事務員			受付 事務	予診 保健婦等	計測 看護婦等	診 医師	診 看護婦		集 団 指 導			個 別 指 導		
														保健婦		心理 相談員	保健婦	栄養士	
青 梅 市	4月30日 （5月14日）	121人	91人	4人	人	月1回	1,350人 （1,080）	2	5	3	4	4	1	1	1	（1）	1	（1） 22	
福 生 市	4月28日	55	47	4月3 5月2	1 —	月1回	870 （700）	2	4	2	3	3	1	1	1	（1）	1	（1） 18	
秋 川 市	4月6日 5月4日	68 31	63 28			月1回	500 （400）	1	2	2	2	2	1	1	1	（1）	1	（1） 13	
羽 村 町	4月14日	66	55	3	1	月1回	750 （600）	1	3	2	2	2	1	1	1	（1）	1	（1） 14	
瑞 穂 町	（5月19日）	50		2		2ヶ月 1回	320 （260）	1	2	2	2	2	1	1	1	（1）	1	（1） 13	
日の出町	（5月26日）	25				2ヶ月 1回	180 （150）	1	2	1	1	1	1	1	1	（1）	1	（1） 10	
五日市町	（5月）	40				2ヶ月 1回	200 （160）	1	2	1	2	2	1	1	1	（1）	1	（1） 14	
檜 原 村	年4回 （6月,9月 12月,3月）					3ヶ月 1回	50 （40）												
奥多摩町	年4回	25				3ヶ月 1回	120 （100）	1	2	1	1	1	1	1	1	（1）	1	（1） 10	

※ 健診従事者数欄の（ ）内は兼任者数を示す。

Topic News

塩 沢 講 師 頑 張 る

羽村医師会では、別記のごとく働きざかりの健康“成人病を防ぐには／”と銘うって諸先生が羽村町環境衛生課保健センターで講師になり、町民の皆さんに成人病の予防について張切っておられます。たまたま6月15日ガンのテーマでの塩沢先生の講座に出向く機会を得まして、写真一葉を添えて報告する次第です。沢山の受講者が集まり盛会でした。冒頭に「お隣の福生市には何でも負けているが、癌患者死亡数では残念ながら統計上勝っている」とのお話を伺ったところ、残念ながら福生病院産婦人科の緊急召集令で、ポラロイドを撮り途中で失礼しました。幸い福生病院東二階勤務の石井主任、海和助産婦が最前列に席をとり、一所懸命メモしたり、録音したりしてましたので、お二人より数多くのスライドを作成しての熱弁振りを耳にしましたので、頭が下がる次第です。なお、来る7月7日はアンケートにより講師の先生方を囲んで受講した人達との話し合いがもたれる由、第二報は地元の講師も兼ている新人記者村山先生が、何か講座についての町民の皆様の反応など記事を頂けるでしょう。

(リポート 道又)



1. 時 間 毎回午後7時30分～午後9時
2. 場 所 羽村町保健センター
3. 講 師 羽村町医師会 福島，松原，東，村山，塩沢の諸先生
4. 受講人員 毎回100名
(定員になり次第締め切り)
5. 申 込 み 保健センターへ電話で申込み
6. 費 用 無 料
7. 日 程

日 程	テ ー マ	内 容
5/19(水)	成人病とは	なぜ成人病を気にするか
5/25(水)	高 血 圧	脳卒中の大きな原因である高血圧対策
6/2(水)	心 臓 病	狭心症，心筋梗塞等でたおれないために
6/9(水)	糖 尿 病	糖尿病はなぜこわい
6/15(水)	ガ ン	日本人の死因トップに立ったガン
6/22(水)		ガンよおごるなかれ
6/30(水)	心 身 症	心がもとで起こる体の病気
7/7(水)	話 し 合 い	医師をかこんで

☆ 関心のあるテーマだけでも受講できる。



文 芸

短歌

水無月雑詠

小泉新策

さみだれの けならび
降りる葉がくれに
香り ただよふ 梔子の花

傷つきて 幾日伏床に
こもりいて
紫陽花の花 つぶさに 看まもる

日ひとひ 色うつろいて
紫陽花は
梅雨に なじめる
不思議なる花

解禁の 初つ鮎 幾尾か
携さへて
友輩 訪ね来ぬ
水無月の夕べに

夜あがりの 水無月祓の
鎮守森
神田囃子に 浴衣
どよめき

傷癒やす ためにとは云へ
屈託の
時すごさむと 南朝史 読む

古木屋の 榼木や 柱
拭き清め
心すがしく 汗 流したり

散歩道へ 日頃めで来し
うばゆりの
日曜のあした 消えて 失せたり

採るもよし 移植すも
又かまはねど
稀有なるものは 保存しおきたき

同好会だより

第103回 西多摩医師会ゴルフ大会

昭和57年6月20日(日)、立川国際草花コースで行われた。むし暑い天候で参加者は少なかったが、1ストロークを争う大接戦の末、大嶽先生が3アンダーの好成績でBG優勝をかざった。

氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット	ランク	新ハンデ	
大嶽	43	38	81	14	67	優勝	10	BG
江本	39	43	82	14	68	2		
川崎	53	50	103	32	71	3		
山田	51	53	104	32	72	4		
鈴木	42	45	87	14	73	5		
葉山	49	43	92	18	74	6		BB
笹本	47	53	100	24	76	7		

第29回西医ゴルフ研修会兼第12回西豹対抗戦

昭和57年5月16日(立川国際C.C.)

当日は好天にもめぐまれ、ゲスト出場の内山・大嶽・近藤(高)夫人がフェアウェイに華を添えて下さったりで、親睦の実も大いにあがった一日で

した。

対抗戦は鈴木先生(個人優勝)、後藤先生(同2位)の御活躍もあり、西医が勝利を得ました。
(足立 記)

	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット	順位
鈴木西	44	46	90	21	69	1
後藤西	43	45	98	16	72	2
近藤(重)豹	42	42	84	9	75	3
川崎西	52	50	102	25	77	4
葉山西	48	47	95	18	77	5
岩瀬豹	48	44	92	14	78	6
松岡豹	46	46	92	14	78	7
山口豹	47	49	96	16	80	8
大嶽西	46	49	95	14	81	9
足立西	45	52	97	16	81	10
内山西	47	47	94	12	82	11
沖豹	48	60	108	24	84	12
藤田豹	54	55	109	25	84	13
江本西	53	43	96	11	85	14
藤川豹	51	48	99	13	86	15
工藤西	52	55	107	16	91	16
青井豹	57	59	116	24	92	17
近藤(正)豹	58	61	119	23	96	18

各部より

学術部より

アンケート調査結果報告

塩 沢 三 朗

過日、学術部アンケート調査をお願い致しましたところ、早速、多数の方からご回答を頂き、厚く御礼申し上げます。その結果を報告させていただきます。 回答率 22.9% (54/235)

<質問1> 曜日と時間帯について

- イ. 1. 火・水曜日 18名 (40.0%)
- 2. 木・金曜日 15名 (33.3%)
- 3. 土曜日 6名 (13.3%)
- 4. 月曜日 5名 (11.1%)
- 5. 日曜日 1名 (2.2%)
- ロ. P.M. 7:30~9:30 20名 (45.5%)
- P.M. 7:30~ 8名 (18.2%)
- P.M. 7:00~9:00 6名 (13.6%)
- P.M. 7:00~9:30 2名 (4.5%)
- P.M. 7:30~10:00 2名 (4.5%)
- P.M. 7:00~ 2名 (4.5%)
- P.M. 8:00~ 2名 (4.5%)
- P.M. 1:00~2:30 1名 (2.3%)
- P.M. 2:00~4:00 1名 (2.3%)

<質問2> 場所について

- イ. 1. 西多摩医師会館 42名 (75.0%)
- 2. 福生 9名 (16.1%)
- 3. 羽村 3名 (5.4%)
- 4. 青梅 2名 (3.5%)
- 5. その他 0名
- ロ. 具体的に、1. 福生保健センター 7名
- 2. 羽村保健センター 2名 3. 青梅福祉会館、西多摩の中心部で駐車場のところ、階段教室のあるところ、それぞれ1名

<質問3> 希望するテーマと講師は

- イ. テーマ 産婦人科領域に於ける超音波診断
- ロ. 講師 順大産婦人科講師 竹内久弥
- イ. 画像診断
- ロ. 肩書にかかわらず、実際にやっている人の体験談を承りたい。
- イ. 心身症としてみた小児喘息
- ロ. 埼玉大 赤坂講師

- イ. 老年病の診療
- ロ. 大友英一
- イ. 糖尿病の治療
- ロ. 慈大 阿部正和教授
- イ. 爪の疾患
- ロ. 北里大 西山茂夫教授
- イ. 心疾患 (特に心電図)
- ロ. 順大助教授 岡田了三
- イ. 不整脈について、免疫について
- ロ. 阿部正和、後藤文男、広澤弘七郎、亀田治男
- イ. 自律神経失調症、老年者の診療について
- ロ. 大学の先生でなく、病院の先生
- イ. 新しい知識なら何でも
- ロ. どなたでも
- イ. 日常診療に密着しつつも、学問的になじみのないもの
- ロ. 誰でも結構です。その道の権威といわれる人はかえってよくない傾向があるようです。
- イ. 保険請求、非学問的であっても必要性の高いものなど如何でしょう。
- ロ. 審査委員の先生
- イ. 心療内科の治療について
- 法医学の初歩 (検死の実際)
- イ. ウイルス性肝炎の治療、HBキャリアーの生活指導

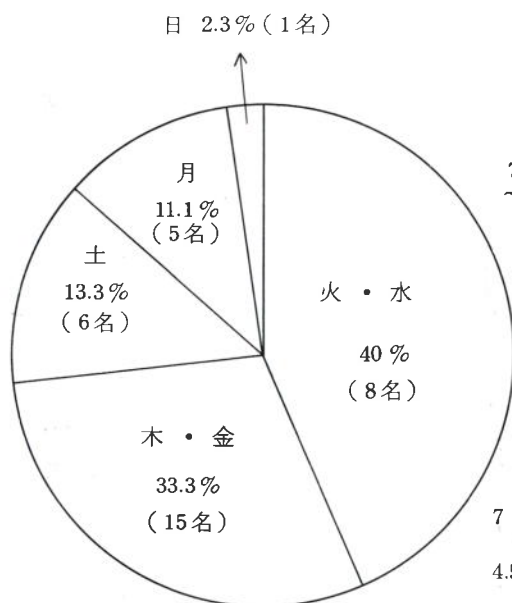
<質問4> 方式について

- 1. 講演会 50名 (59.5%)
- 2. 研究会 18名 (21.4%)
- 3. CPC 12名 (14.3%)
- 4. 会員同志の検討会 4名 (4.8%)
- 5. その他 1名 (1.8%)

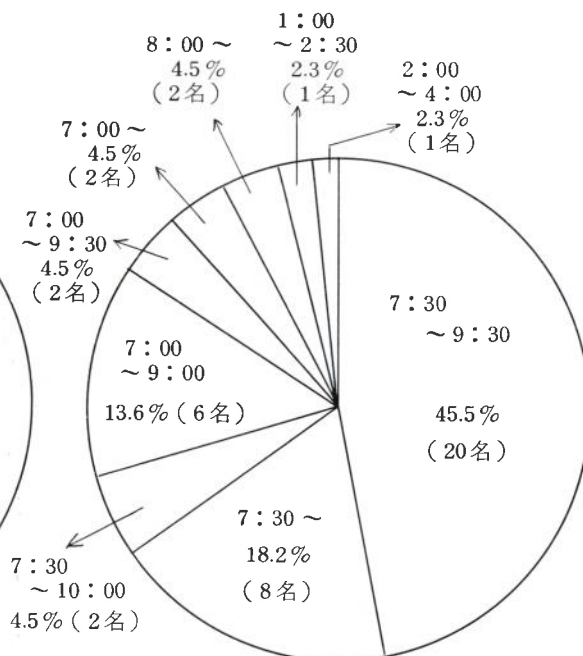
<質問5> 講演会について

- 1. 高血圧の治療 24名
- 2. 最近の抗生物質療法 23名
- 3. 糖尿病の診療、急性肝炎、慢性肝炎の診療、一般医に必要な精神科の知識、心身症治療の実際、検査データの読み方 それぞれ15名
- 4. 喘息の治療とその管理 13名

<質問1> 1. 曜日



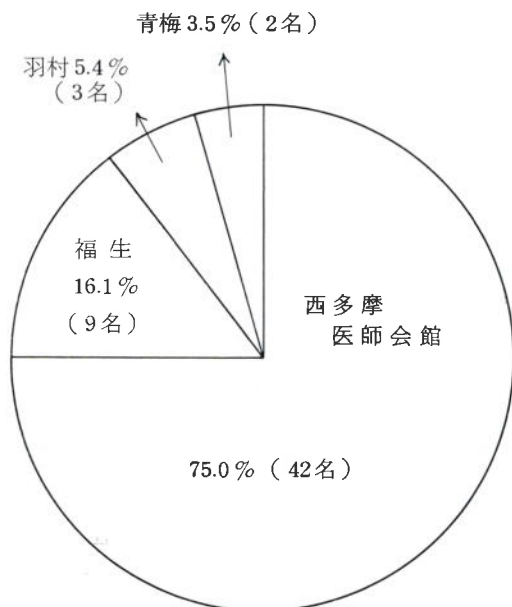
ロ. 時間帯



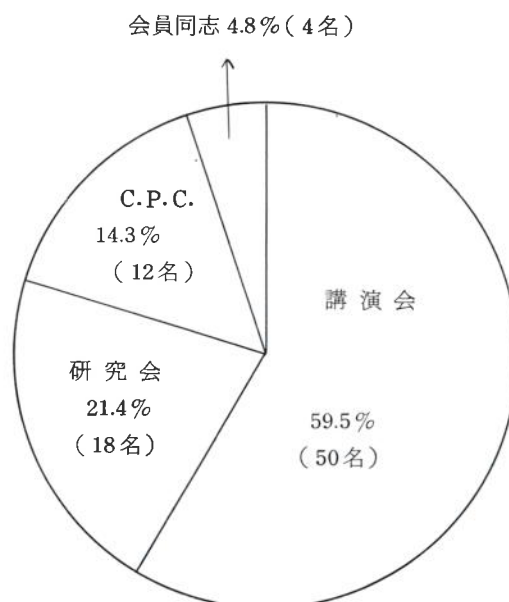
○ 7:30 ~ 68.2% (30名)

○ 7:00 ~ 22.7% (10名)

<質問2> 場所について



<質問4> 方式について



5. 腎疾患の診療、肺疾患最近の動向、医療事故を防ぐために、心緊急症の診療、急死とその対策それぞれ11名
6. 消化管レ線診断のポイント、膠原病の知識、急性湿疹・皮膚炎類(特に治療について)それぞれ11名
7. 急性・慢性膵炎の診療、リウマチ熱の診療、関節リウマチの治療、アトピー性皮膚炎9名
8. 頭痛について、腹部単純レ線写真の読み方それぞれ8名
9. 甲状腺疾患の診療、貧血の診療、慢性呼吸不全の診療それぞれ6名
10. 血尿 5名
11. 老人性骨粗鬆症、心臓手術の適応 4名
12. 尿路感染症 3名
13. 心臓を中心とした循環器疾患、眼科・耳鼻科・産婦人科・泌尿器科について内科医の必要な知識、保険請求のテクニック、地域医療の有機的構造、人口学、未来学、今後の医療はどう日本株式会社の将来に対応すべきか(社会経済学的視点)それぞれ1名
- ロ. 研究会(シリーズもの)
 1. 慢性気管支炎→呼吸管理の実際、単純性・感染症慢性気管支炎の診療、閉塞性慢性気管支炎(喘息・肺機能)の診療 10名
 2. 肝炎のシリーズ(胆嚢炎・胆石も含めて) 10名
 3. アレルギー 10名
 4. 運動器 1名

5. その他 癌, 老年病診療の要点、CTの実際、心電図、超音波・CT等最近の画像診断それぞれ1名

ハ. C.P.C. 2名

ニ. 漢方 2名

ホ. Clinical conforance でも中心になって説明していただける方がいらっしゃれば、非常に面白いと思います。

＜質問6＞ その他ご意見、ご希望、ご感想など
○従来通りで結構ですが、産婦人科が低調の様です。どうしたのですか？

○「社会構造の変化に伴う心理的、経済的变化と医療」といった社会学的な広い視野のものが要求されると思います。

○X線写真の読み方等について、気軽に話し合い相談できる機会が欲しい。「X線検討会」の名称でもつけて、希望者をつのりグループを作って集まるようにしたらどうか。これは胃・腸・胸部・頭部・関節等各分野に亘るものとする。

○出席と回答していて、忘れることがあるので、前日か当日に電話連絡をしたらどうか。

○なるべく誘い合って、出席くださると有難いが。

以上の如く、大変貴重なご意見、ご希望、ご感想を下さり、心からお礼申し上げます。この結果を踏まえて、会員の皆さま方のお役に立つ、よりよい部活動をすべく委員一同、一致協力して、たのしく、力一杯頑張っていく心算でございますので、今後共一層のご鞭撻ご支援を賜りますようお願い致します。(文責 塩沢三朗)

保険部より

社保講習会が6月21日に行なわれました。講師は立川社保事務所より大下本道義所長、近藤寺夫給付課長、都民生局保険部地方技官渡辺誠三先生、都医理事寺沢正夫先生の諸氏でした。

渡辺技官より療養費請求書の記載に当たっての留意事項について、近藤給付課長より保険医療機関の開設、異動、変更、休止等に伴う諸手続について解説がありました。寺沢理事は社会保険制度の構成について話されました。

1. 看護料承認申請書は、看護料が症状により分けられているので症状、項目の記載が適当でないと患者に所定の料金が支払われなくなります。

小林 康 光

2. 傷病手当金については、昭和56年3月31日以前より継続して治療を行っていた場合、初診日より3年を経過すると手当金が給付されなくなります。それ以降は法改正により給付されます。ケースによっては手当金が給付されない場合もあります。

3. 柔道整復師等の同意書について
整復師は外傷のみを治療の対照としているので、神経痛等は治療出来ません。

4. コンピューターによる請求明細書が増加していますが、屢々、請求額が一桁間違っていることがあります。(例えば4,000点が40,000点に)

必ず見直しをして下さい。

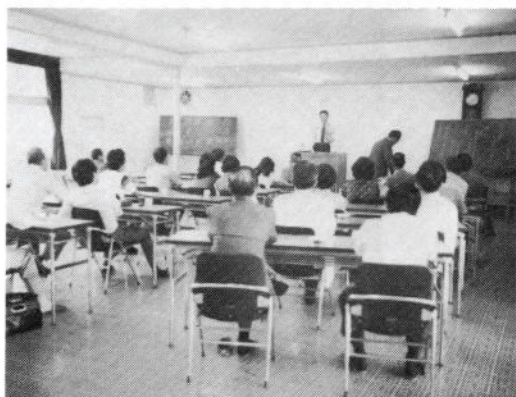
5. 保険者がコンピューターを用いているので明細書の頭書の部分の少しの間違いでも返戻されることがあります。(例えば男女の性別間違い等)

6. 慢性疾患指導料算定日も必ず見直しをして下さい。

7. 乳幼児加算も同様に見直しをして下さい。

以上が今回の講習会の留意点でした。

福祉部より

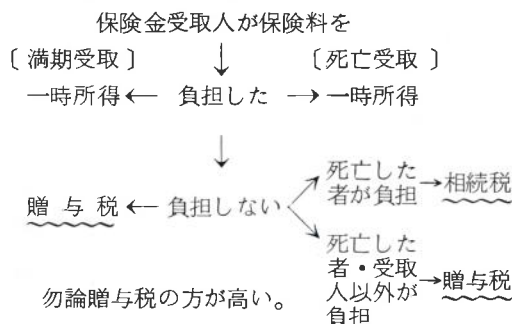


第1回「医師と税制」講演会が6月17日、青梅税務署の佐藤輝雄第一統括国税調査官、山根孝俊第三統括国税調査官を講師として盛会裡に開催された。白色申告と青色申告の税制上のメリットの差異、赤字になったときの還付制度、専従者給与等について有意義な内容をわかり易くお話しいた

植田 稔

だいた。例えば相続税と贈与税の分岐点については、生命保険(非事業用の場合)を一例として次のように極めて明快に講演された。

生命保険と税金



次回は7月15日(木) 13:30～14:30 会館講堂で開催の予定であるが、テーマはアンケートによる会員の意向を汲んで決めることにしている。多数の御出席を希望しております。

広報部より

広報部では会報編集委員会により毎月、西多摩医師会報を発行していますが、スタイルが少しかわって来ている事に会員の皆さんもお気づきかと思えます。今期の会報編集委員会としても、決して会員の皆さんの文芸志向を否定している訳ではありませんが、医療をとりまく状況が刻一刻と変化して来いますし、速報性をもって会員にお伝えしなければならない事項も増えて来ています。

又、印刷に要する費用も年々増加して来ています。そこで、会としての活動になるべく早く、コンパクトに伝える事を考え、4月以降新しい会報のスタイルを試みて来ています。又、発行日を、従来のレシピ提出日ではなく、毎月なかば頃に

堀田 洋 夫

変更したのも目的は同じで、前月までの医師会の活動を次の月のうちにお伝えするという事を目的としたからに他なりません。因みに、従来の様に、月はじめに発行しようしますと、編集技術上、どうしても内容が2ヶ月遅れにならざるを得ませんでした。随筆など文芸欄が少ないと御不満の向きもあるかと思いますが、年2回～4回位にわたって会員諸氏筆になる文芸・随筆特集号を計画しておりますので、随時、原稿をお寄せ下さい。会報は基本的には会の活動の速報を使命としますが、特集号等によって個人としての会員の皆さんの憩いの場も設定し得ると考えています。

ブロックだより

< 南部 >

・秋川市では従来検診業者が行なって来た老人健診を、市内の開業医(医師会員)で実施すべく医師会と相談しながら準備をすゝめています。

・6月20日、野口幸子先生が脳梗塞治療のため東邦大附属病院に入院されました。御回復を祈ります。

・三沢剛文先生が退院されました。

< 西部 >

・青梅市医師会では隔月に会員懇談会が行なわれていますが6月の懇談会では会費の問題や、市と医師会協同で行なう市民健康相談の日程、医師の配置等スケジュールについて話し合いがもたれました。

・去る6月26日、西多摩歯科医師会館にて青梅市三師会(医師、歯科医師、薬剤師)57年度定期総会が行なわれました。丸茂三師会会長の挨拶につづき、56年度事業報告及び決算報告、57年度事業計画案及び予算案が説明され、この後、山崎青梅市長、関塚市議、大橋総合病院院長等を招いて懇親会が行なわれました。尚当日の医師会側出席者は丸茂、江本、土田、川辺、唐橋、進藤、高木の諸先生でした。事業報告や、事業計画案等については後日会報に掲載する予定です。

・医師会の推せんによる付属機関等委員が決まりました。

1. 国民健康保険運営協議会(国保医代表)
百瀬 政雄(任期 56. 1. 1 ~ 57. 12. 31)
江本 虎雄(" " ")
土田 守一(" 56. 12. 21 ~ 57. 12. 31)
2. 予防接種健康被害調査委員会委員
(医師会代表)
百瀬 政雄(任期 56. 6. 1 ~ 58. 5. 31)
丸茂三千穂(" " ")
吉野 住雄(" " ")
大牟礼一雄(" " ")
3. 健康管理センター建設協議会
(医師会代表)
江本 虎雄(任期 57. 6. ~ 継続中)

近藤 肇(任期 55. 6. 10 ~ 継続中)

堀田 洋夫(" " ")

4. 総合病院運営委員会
江本 虎雄(任期 56. 7. 1 ~ 58. 6. 30)
5. 学校給食センター運営協議会
江本 虎雄(任期 56. 9. 1 ~ 58. 8. 31)
6. 防災会議委員
江本虎雄(任期なし歴代青梅医師会長)
(この項高木記)

< 東部 >

6月15日(火)東部地区会が大変な盛会で開催されました。詳細については松原東部ブロック長より寄せられた報告(下記)をごらん下さい。

東部地区会開催

5月18日30名の多数を予定して開かれるはずであった東部ブロック会は、酒井三千生先生が急逝なされたため1ヶ月延期し、6月15日(火)午後7時より福生の「天婦羅くぼた」にて29名の参加を得開催された。東部ブロックはA会員福生地区24名、羽村地区17名、瑞穂地区7名の計48名の構成であり、29名はその6割に相当し当夜は大変な盛会となった。今回は特別な議題はなく、

ブロック長 松原 貞一

副 " " 中村 武

幹 事 森 和胤 (福生地区)

松田三樹雄 (羽村地区)

小林 康光 (瑞穂地区)

のブロック役員の事後承認だけであったのでゆっくり歓談の時がもたれ、更に福生東口「クラブ西陣」での2次会にも多数残られ、深夜まで盃がかわされ唄が流れた。従来ブロック会は12月に開かれることが多かったが、市や町の医師会忘年会があったり、また1月に流れ込むと本会の新年会と重複したりして、とかく延び延びになりがちであったので、今回は時期をずらし秋10月に羽村でもう一度行うことになった。また多くの先生方より年2回位開いたらという声も出され、春秋位に出来ればとも考えている。

今回のブロック会開催に当たり名簿作成時ちに東部ブロックの年齢別構成を調べてみると、30代3人、40代4人、50代25人、60代10人、70代6人で平均年齢は56才であった。

(この項松原記)

理事会報告

6月定例理事会

昭和57年6月23日(水)

P.M. 7:30～

西多摩医師会館

出席18名(監事出席を含む)

1. 会長挨拶

瀬戸岡会長

2. 報告事項

(1) 都医地区会長協議会報告 瀬戸岡会長

1. 東京都医師会からの伝達事項

・第171回臨時代議員会議決事項について

福島代議員都合で出席できず瀬戸岡代議員と大河原予備代議員が出席。

議事① 56年度都医一般会計収入支出決算に関する件。

② 予算補正(医療従業員退職金共済制度に関する件)資料あり。

③ 56年度都医特別会計収入支出決算に関する件。

④ 57年度国保講習事務委託費配分に関する件。

⑤ 57年度公衆衛生協力費配分に関する件。

以上、出席代議員97名/127名で審議、終了。

・第2薬局について

8項目(資料あり)に留意し必要に応じて改善指導を行なう旨の厚生省通達あり、日方医師会了承。(厚生省薬務局長、保険局長→都道府県知事→事務処理→日医会長→都道府県医師会長→地区医師会長→医師会員)

・老人保健法における保健業務について

8月に法案通過。58年1月実施の線が強い。西多摩地区では保健事業の経営主体が市町村となっているから連絡を保ってやって頂きたいということであった。

第13条、16条、21条、23条(資料あり)について疑問や意見が出されていた。

日医花岡執行部は老人保健法案全体に原則として反対なので、厚生省は日医との交渉を行っていない。

(2) 地区医師会からの報告 瀬戸岡会長

・小石川、墨田区の会長が代わった。

・6月19日保谷市医師会が北多摩医師会より独立した。

・中野区夜間応急診療所が開設された。

休日、準夜診療とは別で全面的に都から委託、保険収入は医師会に入る仕組み。土曜、休日、年末年始の応急診療にあたる。内科、小児科2名の医師が常駐、後方収容施設として病院に2床分常時準備する。

・他府県国保レセプト取扱いについて

都医としては国保中央会に入らず都段階で各府県に送付することになりそうである。

(3) 都医学校医会評議員会等報告 東理事

・56年度決算、57年度事業計画、予算、57年度会費徴収について6月8日に評議員会が行なわれた。

事業計画の中では脊柱側彎症、学校保健会設置、学術講演会、学校医研修会等々について論議された。

・6月14日には地区医師会学校医担当連絡会が行なわれ、修学旅行時検便の問題点、脊柱側彎症、講演会(6月29日)、中学の校内暴力、校医と養護教諭の話し合い等について検討された。

(4) 各部報告

1. 産業医部

箱崎理事

・5月24日第1回会合を持ち、今後の方針について基礎資料を得るためアンケート調査を行なうことになった。統計等結果については足立理事が担当する。アンケートは7月10日頃までに回収し、その後産業医部委員会を発足させ、基礎資料にもとづいて活動を始める予定である。

・産業医認定書(日医)について

7月22、23、24日講習会あり、高木、箱崎、川辺理事が参加する。

2. 福祉部

植田理事

・6月10日福祉部委員会をひらき、会員の意向を反映させるためアンケート調査を行な

い、今後の講演会にそなえる。

- ・6月17日、第1回医師と税制の講演会を開催した。講師には佐藤第1統括、山根第3統括をお願いした。

3. 広報部 堀田理事

- ・5月21日、三多摩広報研究会に出席した。
- ・西多摩医師会報の発行日を毎月15日頃に変更した。
- ・NHK特集番組について会報臨時号でおしらせする。

4. 会長より

- ・参議院選挙が近い。東京都医政連には福島監事に出席願う。
- ・19日、高水元会長より日医裁定委員の推せん人になってほしい旨要請あり署名、捺印しておいた。
- ・国保審査委員(整形外科専門)を出すよう都医より要請あり、大塚総務部長、木野村保険部長と相談の上、高木直理事を推せんし、決定された。来月より出席して頂くことになる。

5. 学術部 塩沢理事

- ・16日、1才6ヶ月児健診について講演会を行ない、33名の出席を得た。
- ・学術部アンケート調査報告について

6. 保険部 木野村理事

- ・21日、社保講習会を行なった。講師は立川社会保険事務所より招いた。
- ・カルテ記載不備に注意して頂きたい。

7. 西村副会長より

7月12日、西多摩医労協開催の予定である。委員の方は出席をお願いする。

8. 公衆衛生部委員会 松原理事

- ・予防接種後注意事項について統一的ヒナ型を作成し市町村に示したい。
- ・問題事項の一部改正は秋までにやる予定。
- ・修学旅行時検便の取り扱いについて、赤痢以外は法的規制がない、校医の判断にまかされている。

9. 定款施行細則研究会 西村副会長

案ができたので資料をつくり配布した。委員で検討し意見を会長のところへ出すことになっている。

3. 協議事項

(1) 多摩医学会新役員推せんについて

塩沢理事、大河原監事、三病院から大久保、菅井、大橋の三先生にお願いしたい。

三病院には江本先生より連絡し了承をしてもらう。

— 全員賛成 —

(2) 入会会員

・島田真、天野了一、横田博、浜島吉男、原本富雄(奥多摩病院) — 全員了承 —

・労災指定申請

大門診療所、萩森正紀 — 全員了承 —

・管理者変更

沢井診療所 高氏平華→大堀洋一に変更

— 全員了承 —

(3) 広報部、道又会報編集委員より出されている問題については編集委員会の中で処理すること。理事会傍聴はさしつかえない限り可とする。

(4) 今後の日程について

- ・6月25日総務会(就業規則案検討を同時に)
- ・7月8日協議会を理事会に変更。
- ・8月は役員会を開催しない。

— 以上 —

役員出張

- 6月2日 福生保健所定例会
- 8日 都医学校医会評議員会
- 9日 五日市保健所定例会
- 14日 都医学校医連絡会
- 17日 都医代議員会
- 18日 都医地区会長会
- 18日 三多摩会長会
- 19日 保谷市医師会独立記念式
- 25日 多摩医学会幹事会
- 26日 青梅市医師会総会

会員通知

- 国保診療報酬の振込銀行変更の申請について
- 「東京都医師会学術講演会」の開催について

○会報

- 57年度臨時総会報告
- 学術部アンケート調査依頼
- 学術講演会案内
- 市町村教職員組合員証等の更新について
- 労災医療請求書提出日について
- 都医学校医会57年第1回学術講演会
- 町田市医師会主催市民医学講座について
- 第1回福祉部講演会「医師と税制」
- 社会保険講習会開催案内
- 会報
- 福祉部アンケート（税務講演会調査）
- 産業医・嘱託医に関するアンケートのお願い
- 会報（臨時号）

—おしらせ—

会報118号(8月号)は皆さんお待ちかねの文芸・随筆特集号となります。なにしろ文芸というぐらいのものですから、随筆に限りません。「文」の「芸」であれば何でもかまいません。優秀作品に対してはいずれ「西医学賞」でも出しましょうか。当分の間は「直木賞」「ぐらい」をめざして御寄稿下さい。〆切りは7月20日です。
(会報編集委員会)

あ と が き

数年来の空梅雨とのことで都心部では節水の呼びかけ、給水制限が行われ始めていると連日新聞に報道されている。しかし水源地である当地方ではいつもと変らぬ清流が多摩川、秋川に望まれ、奥多摩の緑はますます色濃く、水飢きんの実感など全く感じられない。むしろジメジメした、うっとうしい例年の天候もなく爽やかな毎日がうれしい。

新執行部となって発足してから早くも4ヶ月、医師会日誌を見ても理事会、各種委員会、講演会、また役員の出張等20件の事業活動が報告され、活発な医師会運営が行われていることがわかります。今月号には『公的病院と医師会との連携について』と題する意見発表が高木直先生より投稿されていますが、一般開業医と公的総合病院の本来あるべき理想的な姿について適確に述べられ、この関係こそ患者にとっても我々開業医にも、また公的病院にも最も望ましい状態であろうし、政府の言う医療費節約の対策にも通ずるものと思われます。個人的には、このような関係を公的病院と持って

いる会員もおられると思いますが、これを医師会的レベルに拡大し、すべての会員が当医師会内の公的病院と密接に連携すべき時であり、この実現のために双方の努力が望まれます。

羽村医師会では今年5月より9回にわたり町内住民を対象とした成人病の予防に関する講演会が医師会員を講師として開かれ、毎回多数の受講者が集まり盛況とのことであります。自分の診療室の椅子にドッカと座り来る患者をみていればよい時代は終わったといわれますが、率先地域住民の中に入り、はば広い医療活動に努力されている羽村医師会の先生方に敬意を表す次第です。

学術部より前回会員の先生方にお願ひしました講演会に関するアンケートの調査結果の報告があり、回答率は22.9%とのことでありましたが、講演会が主としてA会員である開業医師を対象として行われているようですので、アンケートに対する回答も主にA会員、132名の先生から頂いたものと考えますと回答率は41%となり、講演会に対する会員の関心度もかなり高いものと考えられることは出来ないでしょうか。(栗原琢磨 記)

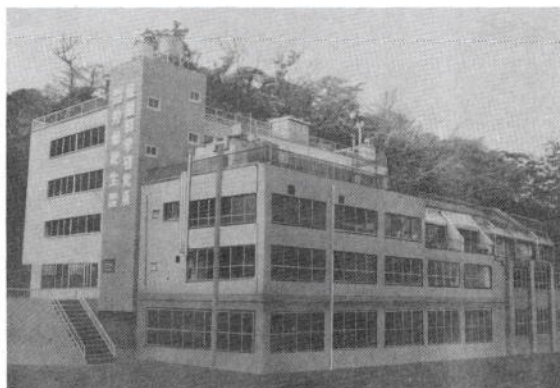
臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



○総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。

○完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)

○関係医療機関 約 3,500ヶ所

○広範囲な検査内容

●内分沁学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査

●病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

！都II県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)

東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)

青梅支店 (TEL 04288-3-2515)
奥多摩特別出張所

福生支店 (TEL 0425-51-1021)

村山支店 (TEL 0425-61-1211)

五日市支店 (TEL 0425-95-1311)

河辺支店 (TEL 0428-24-2401)